

# 縁起に御縁を頂戴して学ぶ

阿部美香

昭和女子大学非常勤講師

博士論文「中世寺社縁起の研究」は、鎌倉幕府の草創を支え、東国の文化形成を担った霊地である箱根・伊豆・三嶋の宗教的な世界を、寺社縁起から解明しようとするものでした。資料を採訪調査し、翻刻して解読する作業を積み重ねることで、漸く体系化された三つの霊地の世界を復元することの可能性がみえてきましたが、テキストが語る豊穡な世界は、現代人の想像を遙かに超える奥行きや広がりがあり、生活機構学専攻で幅広い分野を学び、かつ創立80周年記念事業であった唐招提寺の文書調査に関わらせて頂いた経験が、それらを読み解くための大きな力となりました。その成果は、科研費（特別研究員奨励費）の交付を受けて「東国の神話形成の研究」へと展開しています。新しい発見や資料に出会うたびに、恩師の先生方や学友、地域の縁、文化財を守り伝える方々との縁、たくさんの縁が自分を支えてくれていることを強く感じ、ありがたく思っています。東明学林から望まれる富士・足柄・箱根の山々に息づく文化文芸を探究できることは、密かな誇りです。それゆえに、研究の成果が学界だけでなく広く地域の人々や社会に役立つことが御恩返しであると思っています。なにより、母校で非常勤講師として教壇に立ち、学生とともに寺院の調査や祭祀法会の見学に出かけて歴史文化の実相を体験し、研究に取り組む楽しさを共有できることは大きな喜びです。日本の文化を深く見つめ直すことは、国際化の波の中でより重要な意義を担っていると思います。母校で研究と教育の二つの現場に関わるという、恵まれた機会を戴いているからこそ、地域の歴史文化を探究し還元することの大切さを、学生とともに学んでいきたいと思っています。この夏には、箱根神社の御鎮座1250年記念による宝物殿の開館に臨んで編まれる図録の執筆に、これまでの研究成果をすべて盛り込むべく取り組みました。

（2000年度博士〔学術〕学位授与）



藤沢遊行寺歳末別時念仏会の見学にて、右から2番目が筆者